

# 初の女性向け見学会

## 担い手確保へ、高校生ら参加

女性を対象にした工事現場の見学会が23日、長門市の国道491号「長門・俵山道路」の工事現場であり、山口県内の女子高校生・高専生36人が参加した。高齢化により人材不足が進む建設産業の魅力を知ってもらおうと、県が初めて企画した。

### 長門の工事現場



トンネルの工事現場を見学する女子高校生たち  
23日、長門市

同市俵山の大寧寺第一トンネルでは、建設会社の担当者が若者や女性にも働きやすい快適な職場づくりに向けた取り組みなどを紹介。参加者は建設が進むトンネルの内部を興味深そうに眺めたり、写真撮影をしたりした。建設業で働く女性との意見交換会もあった。徳山商工3年の林里苑さん(17)は「とても勉強になった。建設業界はやりがいがあると思う」と話した。

県監理課によると、2015年の県内の建設業就業者数は約5万7千人で、このうち工事現場で働く女性の割合は5%程度にとどまっている。同課の下川直伯主査(44)は「見学会は参加者も多く大盛況だった。生活の土台をつくる建設産業を身近に感じてもらうたい」と担い手確保に期待を

寄せた。県は今後も女性向けの工事現場見学会を年1回程度開催する方針。

山 口 新 聞

2017年(平成29年)8月24日 木曜日